

共創施設整備の検討状況について

児童文化センターは施設の老朽化や一部機能が現在のニーズに合致しないといった課題を抱えており、今後のセンターのあり方について検討が必要となっていた。このたび鳥取大学から病院再整備におけるホスピタルパーク構想の実現に向け、センターと鳥取大学の体育館機能を「共創施設」としての整備の検討について提案・要請があったことから、現在、鳥取大学と共創施設整備に向けて具体的な協議・検討を進めているところである。

1 経緯及び概要

(1) 児童文化センターのあり方検討状況

センターは、児童の健全育成を図るために、これまで長きにわたり、児童や子育て世代にとっての居場所として、また生涯学習の場として、重要な役割を果たしてきた。現在、築43年が経過し施設の老朽化が進んでいる。

雨漏りや設備の不具合については修繕等を実施しながら施設活用してきたが、施設の老朽化に加え平日の2階部分が有効活用できていないなど、一部機能が現在のニーズに合致していない現状があることを踏まえ、今後のセンターのあり方や整備方針について、検討が必要な時期を迎えていた。

(2) 鳥取大学との共創施設整備に向かう経緯等

湊山公園周辺のまちづくりに向けた市民意見聴取（ワークショップ等）においても、センターの更なる活用や機能充実を求める声が寄せられている。

また、ホスピタルパーク構想を掲げる鳥取大学から、病院再整備に伴う医学部体育館の移転再整備と合わせた「共創施設」としての整備の検討について、提案・要請があった。

2 共創施設の考え方

(1) 文化や科学を楽しく学ぶことができる施設

子どもたちが学びや遊びを通して、文化や科学への興味・関心を深めることができる機能を持たせた施設。

(2) 全天候型の子どもの居場所

雨天時や猛暑など天候に左右されず、子どもたちがのびのびと活動できる「屋内の遊び場（居場所）」を求める多くの市民の声に応える施設。

3 本年度中の取組について

(1) 基本構想・基本計画

共創施設整備事業を進めていくにあたり、本年度中の「基本構想」及び「基本計画」の策定を目指す。

(2) 計画等の策定に向けた取組み

①ワークショップの開催

○第1回（令和8年5月2日、参加者：10名）

前述の考え方をもとに、「今のセンターへの想い」、「未来のセンターに期待すること」についてグループワークを実施。

○第2回（令和8年6月14日、参加者18名）

第1回で出たアイデアを整理し、「学びたい」「体験したい」「体を動かしたい」「集まりたい・交流したい」というキーワードを設定。キーワードごとの島（エリア）に対してアイデアを出し、模造紙に「未来のセンター手作りマップ」を作成。（資料1）

②アンケートの実施

ワークショップに参加できなかった市民や利用者等からの意見聴取のため、アンケートを実施中である（～6月末まで）。中間結果については別添のとおり。（資料2）

③鳥大との協議（継続）

導入する機能の詳細、利用形態や費用負担、また共創施設でのソフト面の連携等、協議を進めている。

4 今後の想定スケジュール

令和8年7月：基本構想策定

令和9年1月：基本計画策定

令和9年度以降：設計業務着手

未来の児童文化センター 手作りマップ

学びのエリア

屋外

体験エリア

屋内のあそび場

みんなの広場

未来の児童文化センター 手作りマップ



5 屋外

1 学びのエリア

2 体験エリア

科学
教室

自然観察
池

カルチャー
センター
(世代にわたる
学習)

自然観察
池

① 大空の
中 実験
小 実験

② 大空の
中 実験
小 実験

世代間
交流
会

てらこや
式学習

木工
体験

料理
教室

身体
体験
アスレチック

実験を
体験

民間人
スベリ
経験
サイエンス

② オリガミ
切り紙
(体験)

大工さん
の
道具
の
使い方
の
体験

キャンプ場
施設
整備

フィールド
アスレチック

パレー
パーク
体験

サマック
体験

ミニ
農園

自然観察

イロハ
体験
(体験
体験)

竹
体験

3 屋内のお遊び場

4 みんなの広場

ボード
ゲーム
交流会

エ
スポーツ

むけり
体験
体験

めい
と
味わ
える

③ まち
体験
(体験
体験)

世代交流

カフェ

バリアフリー
多目的

ワーク
ショップ

多目的

夜間
体験
体験



ベアニアの
どろ団子
ずくろ
茶色団子

な見

ゴズ釣り
伊藤
中道で

天体観測
宇宙・星空
月子

70110-
火田野菜
の料理編

米と油と
漬と橋で
つなぐ

ボール遊びの
22ヶ条

火越ひ。

屋上stair
畑・芝・
芝・草・
垣・作

・新工場の建設
(食の安心)
・クッキング
・地元産物を使ったメニュー

じとふて
 音ふり
 大になて
 ボウテン

99目的J. 2.
舞台シリーズ
発表の場

原大学生に
勉強の仕方
を教える
原学の学び
と原学の
つらさ

勉強スペース
7:00~7:30min

同室
布衣國書信
之一作下題



ストリート
ピアノ

おまじない

救護 + 受取室
347-12-0

救護 +

卓球大会
竹玉大会
将棋大会

宝珠がひまろ
尊用の部屋
けん玉

・竹と人組
とばし大愛!!

屋上

科学史话
王淦昌
C02

いろいろな
楽器を
演奏してみよう!!

3079129
(有来料)

木2. 金3. 道具

(附作)
工作 10 日
{- 200-100
{- 100-100
(四) 工費

保傳重
區大北聯

1742. 子と母
銀日

屋上からの
坂で冬は
ソリ遊び

アンケート回答状況

○回答数：102 件（令和 8 年 6 月 21 日時点）

○年齢層および立場

回答者の年齢層は、10 代（36.3%）が最も多く、次いで 40 代（19.6%）、30 代（18.6%）の順となった。また、立場については「児童の保護者・ご家族（42.2%）」が最も多く、次いで「小学生・中学生・高校生・高専生（ご本人）（36.3%）」の順となった。

10 代の多くは高校生による回答である、各高校に協力依頼をした影響が大きいと思われる。保護者についても同様に、学校の保護者連絡ツールを活用し、各家庭に周知を図った。

○利用目的

利用目的としては、「プラネタリウム」が 63.7%と突出しており、センターの中心機能であることが示された。次いで「多目的ホール（39.2%）」「図書室（34.3%）」「研修室で卓球（31.4%）」「屋外（プレーパーク）（30.4%）」と続いており、屋内、屋外を問わず、子どもたちが多様な過ごし方を選択できる居場所として機能していることが読み取れる。

○好きなところ

プラネタリウムへの回答が多数で、職員による生解説への高い評価や「ずっと残してほしい」という意見があがった。また、雨の日でも遊べる・過ごせる場所（図書室、卓球ができる研修室、ボードゲームやおもちゃ）として、また、「世代を問わない、だれもがふらっと遊んで帰れる場所」、といった意見が寄せられた。

○改善してほしいところ

ハード面の指摘が多数であり、一番多いのがトイレ・授乳室への意見であった。また、駐車場に対する「イベントが重なると駐車できない場合がある」という意見や、立地、アクセスの不便さに対する意見もあがっている。

○未来へのアイデア・要望

学生からは自習室、保護者からは子どもが雨の日でも思い切り体を動かせる施設を望む意見が多く見られた。

○その他

回答者のセンターに対する愛着（「大好きである」、「ここで育った」）や、今後に向けた温かい意見が多く集まった。また、今後の管理体制への提案等も寄せられた。

<参考：各回答の集計表>

○年齢

年齢層	回答数（件）	割合（%）
10代	37	36.3%
20代	5	4.9%
30代	19	18.6%
40代	20	19.6%
50代	14	13.7%
60代以上	7	6.9%

○立場

立場	回答数（件）	割合（%）
児童の保護者・ご家族	43	42.2%
小学生・中学生・高校生・高専生（ご本人）	37	36.3%
教育・保育・子育て支援などの関係者	6	5.9%
その他（市民・市職員・ボランティア等）	16	15.6%

○利用目的（複数回答可）

利用目的	回答数（件）
プラネタリウム	65
多目的ホール	40
図書室	35
研修室で卓球	32
屋外（プレーパーク）	31
屋外（前庭）	26
ホワイエでの遊び	25
イベント・講座・展示など	20
クラブ活動	15
天体観測	14
その他	6
電子顕微鏡	3

○利用頻度

利用頻度	回答数（件）	割合（%）
たまに利用する（年1回以上）	41	40.2
以前は利用していた	36	35.3
よく利用する（月1回以上）	22	21.6
利用したことがない	3	2.9